

エリス&エイダの鬼の里Diary

Ellis's Story

「Congratulations!」

やっと春の訪れを感じられるようになりましたね。日本の春と言えば、桜の花が満開になったとても綺麗な景色が思い浮かびます。家族や友達と一緒にお花見に行って、食べたり飲んだり楽しむことができるので素敵ですよ。しかし、春と言えば花粉症もありますね。花粉症は英語で「hay fever」と言います。アメリカでも花粉症持ちの人が多く、私の家族も花粉症で悩んでいます。私は唯一家族の中で花粉症ではないので、ラッキーです。

3月に教え子である小学6年生と中学3年生の子どもたちが卒業しました。中学生の皆さん、受験お疲れ様でした。アメリカには受験がなく、高校は住んでいる場所にある高校に入学できます。また、大学の受験も

なく、願書等の文書で合否が決まります。アメリカの学生と比べると、日本の学生はたくさんのストレスを抱えて大変だなとつくづく思います。

今年卒業された学生の皆さん、おめでとうございます。これからそれぞれ中学生と高校生になりますね。今まで英語を一生懸命勉強してくれて、本当にありがとうございました。これを機にこれからも英語に興味を持って勉強してくれると嬉しいです。英語が上達すると、海外旅行や外国の方と会話するのが楽しくなりますよ！皆さんのおかげで英語を教えることがとても楽しかったです。私の姿を見かけたらぜひ声をかけてくださいね！皆さんのことをずっと応援しています。

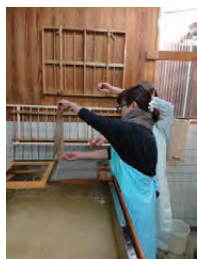


鬼北町外国語指導助手
通称：エリス

アメリカ合衆国カリフォルニア州出身
※毎週水曜日、エイダとともに英会話教室を開講しています。

地域おこし協力隊のゆうゆう自適日記

皆さん、
こんにちは！
鬼北の「泉貨紙」
作り体験をして
きました！



地域おこし協力隊1年目
はやかわ ゆうこ
早川 優子

【泉貨紙作り体験】

発明者である兵頭太郎右衛門の武士の法号「泉貨居士」から命名された「泉貨紙」。和紙の中でも強靱な紙で、かつて化粧箱の蝶番にも使われていました。簀の目の細かいものと粗いものとで漉いた2枚を重ねて1枚にし、繊維の絡み方が異なるものを二重にするため、一般的な和紙と比べ倍以上の丈夫さが出るのだそう。水分の多い桁の上で合わせるため、粘着力が強く、はがれる心配もなく、丈夫なのだそうです。

鬼北町では、町内の小中学校の卒業証書に泉貨紙が使われていることを知り興味を持った私は、貴重な泉貨紙作り体験をさせていただきました。その他にも、鬼北泉貨紙に柿渋処理を施し、抗菌性・耐水性を高めた二次加工により、革細工のような独特の風合いを持った「鬼ノ強紙」などを見せていただきました。

何を製造するにも機械化されていく中で、手作業だからこそその風合いは、後世にずっと残していきたいです。



▲鬼ノ強紙で作られたカバン